

『時事直言』 No.1632 2023年11月1日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](#)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](#)



時事評論家 増田俊男

私が日本の首相なら北朝鮮拉致家族を 即刻帰国させることが出来る！

「インターネット目からウロコの増田塾」の皆様には今朝お話ししましたが、2002年9月17日の小泉純一郎首相と金正日北朝鮮主席の日朝首脳会談で歴史的なことが起きました。

金日成時代から日本人拉致を一切否定してきたにもかかわらず金正日が過去の拉致行為を認め、驚くことに謝罪までしたのです。

ところが加害者金正日は被害者日本から100億ドル(当時約1兆3,000億円)謝罪認識料を取っていたのです。

犯罪者(北朝鮮)は犯罪を認め謝罪したのだから加害者(北朝鮮)は被害者(日本)に罰金を払うのが常識なのに逆のことが起きていたのです。

金正日は日本が100億ドルを払うことを条件に拉致を認め、かつ謝罪し拉致被害者蓮池さん等5名を一時帰国させたのです。

5人の帰国で日本は歓迎で沸きましたが、一方北朝鮮でも祝賀ムードで沸いたのです。

日本では日本人5名を地獄から天国へ取り戻したことで喜び、北朝鮮はたった5名を一時帰国させただけで1兆円以上を手にしたので喜ばずにはいられなかったのです。

小泉内閣は、5名の日本人をせっかく地獄から天国へ連れ戻したのだから再び地獄へ送り返すわけにはいかないという世論に押されて5名を北朝鮮に送り返しませんでした。

平壤宣言を日本の方から破ったので、以後日朝国交正常化交渉の機会は無くなり、北朝鮮は日本海に向けてミサイル発射を続け、東北の上空をICBM(大陸間弾道ミサイル)がかすめ飛ぶなど対日軍事威嚇を続けています。

北朝鮮にとって日本人拉致家族は人質であり、いかに高額で引き渡すかが重要なのです。

いくら犯罪行為(拉致)を批判し、人道主義に訴えても北朝鮮は聞く耳を持たないことは今までの20年で分かっているはずで。

日本人が北朝鮮に拉致されたのは1970-80年の金日成主席の時代です。

拉致された日本人の方々は50年も前に拉致されたのですから、北朝鮮にとって日本人人質の寿命は最大関心事です。

人質が老衰して死ねば取れるものも取れなくなり、元も子もなくなります。

時間は北朝鮮の敵なのです。

福田赳夫元総理が言った通り「人の命は地球より重い」のなら、北朝鮮が、時が経つのを恐れている今こそ、日本人人質一人いくらかの交渉をすべきだと思います。

2002年9月17日、日本人人質5名の値段が1兆円プラスだったのだから20年後の今日いくらになるか計算して、金正恩に期限を切ってオファーすべきではないでしょうか。

私が日本の首相なら日本人拉致被害者一人当たり1兆円でオファーします。

北朝鮮は手を尽くして本物の拉致日本人と偽物の日本人をかき集めるだけ集めて来るでしょう。

インセンティブ効果がモノを言います。

拉致家族は日本にとってはかけがえのない地球より重い命、北朝鮮にとっては金になる大事な人質。

敵を知り己を知れば百戦危うからず！

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。